

定期接種

HPV ワクチン（子宮頸がんワクチン）

予防する病気 HPV 感染症とくに子宮頸がん

HPV はヒトパピローマウイルスの略です。HPV はほとんどの人が感染します。多くは自然に排除されますがときに持続感染しその中の一部の人子宮頸がんに至ります。子宮頸がん以外にも中咽頭がん、陰茎がん、肛門がんやがんではありませんが尖圭コンジローマといういぼの原因にもなります。

ワクチン接種

小学校6年生から高校1年生（通常中学1年生）の女子が対象です。HPV ワクチンには2価と4価の2種類があります。2価ワクチンは1回目の接種から1か月あけて2回目、そこからさらに5か月あけて3回目を接種します。4価ワクチンは1回目の接種から2か月あけて2回目、そこからさらに4か月あけて3回目を接種します。

HPV ワクチンは全身の痛みや麻痺など副反応の可能性のある症状が出現している方が出ており積極的な接種勧奨はひかえられています。現在「中止すべき」と「子宮頸がんを予防するため再開すべき」と両方の意見が出ています。中止になったわけではありませんので対象年齢で接種を希望される方は市の予防接種担当部署に申し出れば無料で接種を受けることができます。